

四十六回蒼天句会 今月の一句

令和八年八月十三日 兼題…天の川、又は自由

四阿の椅子にささくれ銀河濃し 公子

夏座敷今日恙無く帯をとく 婦紗子

雲の峰手話で始まる甲子園 賢一

頂に二人で仰ぐ天の川 繁一

妻の古希祝ふこよひの天の川 孝志

天の川溢水したる街に住み 洋一

風涼し天然酵母のパンを焼く 信江

幾千年願ひを集む銀河かな 静江

一生を地球暮らしや天の川 鎮夫

影富士や花火残煙河口湖 隆彦

一人の名手帳より消す蛍の夜 重子

富士塚に降る晩夏光余震なほ 朱美

はまごうは淋しげに咲き夏の浜 紹子

天の川いくつも星を零したる 晴代

清流にいるかに鮎の姿焼き 久恵